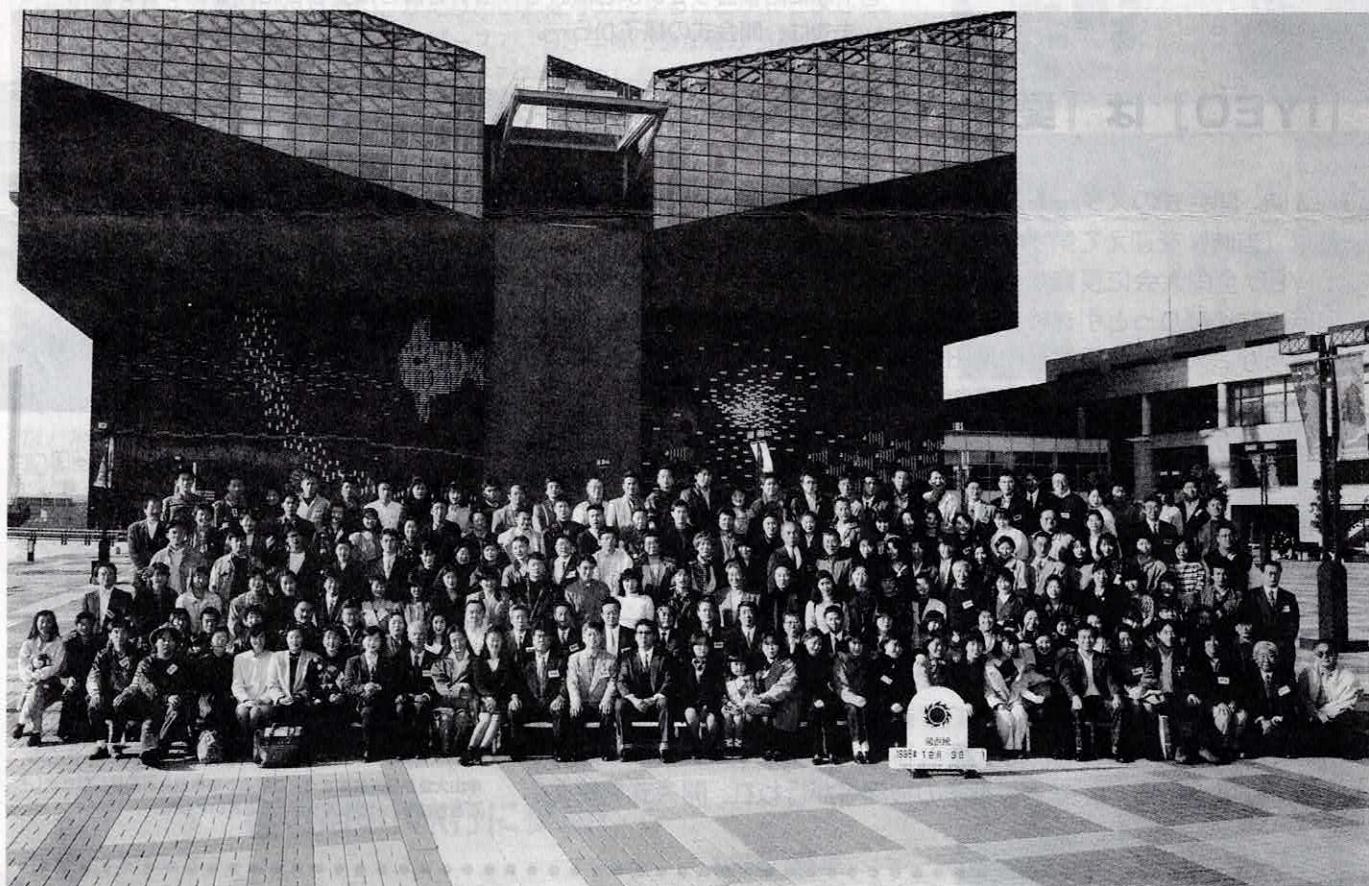


一九九六年四月二十日発行

大阪府青年国際交流機構

会長 増田 健司

渾然標



今号の紙面

第11回全国大会報告特集！

第8回世界青年の船帰国！

no. 61

であった！
ふれあつた！
かたりあつた！

IYEO 第11回 全国大会を終えて

昨年12月2日～3日、三井アーバンホテル大阪ベイタワーにおいて日本青年国際交流機構第11回全国大会が、約400名の参画者を得て盛大に催されました。テーマは『あい、ふれあい、かたりあい 一今、この時代と共に生きる』。テーマにふさわしく、多くの人が楽しく出会い、そしてにぎやかに語り合っていました。その様子をここに少しご紹介しましょう。

まずは、開会式の様子から。

『IYEO』は『愛はいいよー』

3時。開会式のスタート。ぎっしり埋った会場に、中山正暉総務庁長官（当時）を迎えて第11回全国大会開会式が開かれました。

IYEO全国大会に長官が出席されるのは初めてということもあり、何時になくぴりっと引き締まった式典になったと感じたのは私だけでしょうか。大会実行委員長の増田健司大阪IYEO会長の開会宣言のあと、主催者挨拶として演台に立たれた長官は、自らの声でIYEO会員達に語りかけるように挨拶を始められました。その冒頭に、IYEOをもじって、「愛はいいよー」と聞こえるという、ユーモアあふれる愛称を贈って下さり、参会者からの大喝采を受けました。

挨拶の中では、世界の中で日本の置かれている立場に言及され、今回のテーマでもある『今、この時代と共に生きる』ために、青年達の力を大いに發揮してほしいとの励ましが語されました。

のち、IYEO大森充会長から、続いて財団法人青少年国際交流推進センター山田馨司理事長からそれぞれ主催者としての挨拶がありました。そして、来賓の皆さんのお代表として、大阪府の松廣屋慎二副知事から歓迎の挨拶をいただき、祝電の披露等が行われ、開会式を終えました。



中山大臣から大会後すぐ、このような素敵なお札状が届きました。
こちらこそ、どうもありがとうございました。

理想の全国大会

(財) 青少年国際交流推進センター理事長 (第16回青年の船管理官)

山田馨司

IYEOの全国大会は、青少年国際交流事業事後活動推進大会（総務庁青少年対策本部主催）、日本青年国際交流機構全国大会（IYEO主催）及び青少年国際交流全国フォーラム（青少年国際交流推進センター主催）の三つの行事が一体となって行われています。

この大会に期待されているのは、①IYEOの会員間の絆を強めること、②国際交流に対する関心や理解を深めること、③国際交流の輪を広げること、そして何よりも④楽しいこと、の4点に要約できるのではないかでしょうか。

今回の大阪大会は、基調講演、パネルディスカッションは充実していましたし、懇談会は民族衣装を中心とした演出で楽しく国際色豊かな雰囲気作りに成功していましたし、パーティー後は、二次会の部屋が十

分用意され、旧交を温めることができました。国際交流パネル展では、政府事業のほかに様々な団体の活動もにぎやかに紹介されていて、他団体との連携の強さを感じさせました。

二日目の「海遊館」も素晴らしい所でしたし、5コースに分かれての「小旅行」も近畿ならではのバラエティーに富んだ企画でした。

欲を言えば、懇談会や小旅行にもう少し外国青年が参加してくれれば申し分なかったと思いますが、まず理想的な全国大会だったと言えるのではないですか。参加者数から言っても、東京大会を凌ぐような立派な大会を成功させた実行委員会の皆様のご苦労に敬意を表し、ご協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

盛り上がったよ！ 国際交流フォーラム

永久欣也



全国大会1日目のプログラムのメインでもあった国際交流フォーラム。

今回は、第一部をイーデス・ハンソンさんに基調講演をお願いし、第2部をパネルトークという形で実施。最後まで、300人近い方々が熱心に耳を傾けておられ「もう少し時間がほしかった！」という声があちこちから出るほどでした。

【第一部】 第一部は、イーデス・ハンソンさんの基調講演。ご存じのようにハンソンさんは、現在、国際人権擁護団体として有名な、アムネスティー・インターナショナル日本支部の支部長を努めておられます。ハンソンさんの眼から見た日本の国際交流の在り方について、ちょっと皮肉も交えてのお話しをしていただきました。

「国際交流というものは今流行のようなもので、どんな田舎でも、その言葉を聞く。何か、言葉だけが一人歩きをしていて中味がないものが多いのではないか。自分の生活の中に、どういう人達がいれば国際化が進んだと言えるのか。何ができたら国際人と言えるのかを聞いてみてもいい加減な答えしか返ってこない。本当に具体的なものが何もないのが現実である。関西新空港の開港や、APEC大阪会議も単にお祭り騒ぎにしか過ぎず、国際化の決め手ではない。本当に大事なことは人間としてどう生きるかということであり、人権の意識を持つことである。人権の意識を持つ上で大事なことは、できる限りの『想像力』を働かせて相手の立場に立ったり、相手の気持ちを理解しようとして、国際交流、国際化というものは、そういった基本的人権の意識から始めることが大切であり、その心が、本当の交流や国際化を支えていき、いい意味でのネットワークをつくることができるのだ。



【第二部】 第二部は、イーデス・ハンソンさんにも加わっていただき、国際交流や国際親善といった活動のため、関西で活躍されている4名の方を中心としたパネルトーク。

鬼木たまみさんは、関西国際交流団体協議会のスタッフとして、国際交流・国際協力の情報収集や提供といった仕事を通しての立場から、ネットワークづくりの大切さとその必要性を述べてください、兵庫県社会福祉協議会ボランティアセンターの主事でもあり、ボランティアグループ「すまいる」代表でもある桑原英文さんは、先の阪神・淡路大震災での救援活動やフィリピンでの援助活動などから、人ととのつながりの大切さを語ってくださいました。また、在日外国人向けに開局されたばかりのラジオ局『FM CO-CO-LO』でタイの番組制作を担当、東南アジア青年の船OBでもある松尾カニタさんは、番組づくりでの苦労や、在日外国人の眼から見た日本の国際交流の現実を語ってください、一幡隆之さんは、日韓青年親善交流事業のメンバーとして帰国したばかりではありますが、中学時代からの韓国ファンで、韓国への思い入れを熱弁してくださいました。国際交流や国際協力といった方法では、それぞれ異なった活動の持ち主の4名の方々ではあります。人ととの出会いや、ネットワークの大切さといったことでは全員の意見が一致していましたように思います。



他人のために一生懸命に

高3（インターナショナルスクール） 藤田仁奈美

12月2日の講演会では、アムネスティー・インターナショナル日本支部長であるイーデス・ハンソンさんが、国際理解や国際交流について語ってくれました。

私がイーデス・ハンソンさんの名前を知ったのは、「チルドレンズライツ」という一冊の本を読んでからです。その本では、子どもと教育の在り方、どのようにして子どもの権利を守っていくかについて、ハンソンさんは述べていました。この本を読み、私は、現在地球上において、まだ多くの子どもたちが差別や虐待を受け、子どもの権利が侵害されているという事実を目のあたりにし、とても考えさせられました。実際、ハンソンさんの講演を聴き、想像通りの人で、とてもうれしかったです。

また、国際交流パネル展もやっていて、日本のNGO団体の活動を知ることができました。その活動団体の数の多さ、実績に、これまた驚かされました。これらの団体を知ることによって世界の見方が拡がるし、国際社会において自分のできることもはっきり見えてくると思います。

この講演会に参加し、何よりも強く体感したことは、他人のために一生懸命になることのできる人が大勢いるということでした。世界がすべて利害によって動いていくということを認めざるを得ない現在において、NGOや民間レベルの活動こそが新たな息吹を与え、国を、世界を活性化させていく重要な役割を担っていく。そういう人々の熱意や自信が感じられました。

民族衣装で大変身！

楽しかったよ、仮装パーティー！



講演会・フォーラムの後はいよいよ懇談会。たくさんの人達が持参の民族衣装に着替えてパーティー会場へ。ベイタワーホールがたちまち色とりどり、国際色豊かな集まりに大変身！上半身裸ポリネシア風？男の開会宣言に始まり、ダンスあり、クイズありの2時間の間に食事もおしゃべりもと忙しく、楽しい集いはアッと言う間に過ぎていきました。その後の二次会も盛り上がり、市内へ繰り出す者、51階のエアーシップに集う者、日が変わるまで賑やかな一日が繰り広げられました。さてこの日一日で、どれだけの出会いと交流があったのでしょうか？！

各方面から反響を呼んだ（!?）フィジーダンスでしたが、実のところギリギリまで人が集まらずに困っておりました。しかしノリのいい、第7回世界船メンバーのこと。北は東北南は九州の美女（!？）が直前にこの大役を引き受け、集中的な練習を乗り越え、まさに、「ひと肌脱いだ」衣装で本番を迎えるました。自信も何もなく無心に踊った私たちに、暖かい声援と拍手を送って下さり、胸がいっぱいになったのを今でも覚えています。他の踊り子たちも心から喜んでおりました。本当にありがとうございました。

こうしてフィジーダンスにより「ダンサー」の異名をとるまでに強烈な印象を与えた全国大会は、私たちにとって「ダンサー」としてのデビューとなりました。と言いたいところですが、私たちは貴重な経験として心に留めるのみで、カムバックはしませんのであしからず。

第7回世界船 上田菜保子

（上田さんは残念ながら4月より熊本に帰省されることになりました。熊本でのご活躍をお祈りしています！）



「みんながんばってるね！」 国際交流パネル展

会場の前では、総務庁の各事業・インターユニカ大阪・NGO団体・近畿各府県を紹介するコーナーなどが設けられ、待ち時間やプログラムの合間に多くの人が新しい出会いのひとときを過ごされました。パネル展に協力してくださった各団体の皆様、どうもありがとうございました。

第11回全国大会に参加して

青年海外協力隊大阪府OB会 内田 早苗

IYEO第11回全国大会、日帰り組で参加しました。国際交流パネル展や民族衣装の企画など、初めての方とでも話題が採りやすい計らいがあり、私のような会員以外の参加者でも『あい、ふれあい、かたりあい』を存分にすることができます。

パネル展のことです。日韓交流のブースで、95年度の参加者から事業の説明を受けました。実際に楽しそうに語る方で興味をそそられました。「いい経験ですよ。」と、私にも勧められましたが、年齢オーバーであることを伝えると今度は一般団員について教えてくれましたが、年齢オーバーであることを伝えると今度は一般団員について教えてくれ、OBの帰國後レポートを出して見せてくれたりしました。熱心なこのかたの様子から、素晴らしい体験をされたことがよくわかりました。活動報告のパネル以上にこの方自身に説得力があるという感じでした。懇親会の席でも皆様が生き生きと誇らしそうに体験談をなさるので感動がこちらにまで伝わってきて、聞いていて興奮いたしました。

今回フォーラムは、一般からの参加を意識して内容を入門編にしたそうですが、参加者は経験者がほとんどを占めていたようで、もったいなくはなかったでしょうか。時々、協力隊の募集説明会でみかけるのですが、途上国は教えに行く所で教わることなどないように言う人がいます。双方向性、相互理解の重要性が認識されていないよう、そのような国際交流の初心者にこそ聞いてほしいフォーラムだったと思いました。

本大会では自分とは違う海外経験をお持ちの方々とたくさんの出会いをさせていただき、ありがとうございました。たいへん良い刺激を受けました。テーマであった、「今、この時代を共に生きる」仲間があることの素晴しさを感じ、その輪を世界に広げていくことの楽しさを再確認いたしました。



近畿を再発見した小旅行！

● 奈良小旅行に参加して

二日目はホテル最上階でのさわやかな（でない方も若干？）朝食の後、海遊館へバスで移動。閉会式で次回大会の開催地である宮崎での再会を約し、海遊館見学、そして、お待ちかね近畿小旅行へと散つていかれました。バスに乗り遅れるというハプニングもありましたが、各コースそれぞれ楽しい旅を満喫されたようでした。

村岡 留美

- まず始めに小旅行でいろいろとご尽力下さった奈良県支部の方々に御礼を申し上げます。ありがとうございました。
- 奈良のコースの中で私が一番楽しみにしていたのは西大寺の大茶盛でした。普段テレビでしか見たことのないあのピッタリなお茶碗をぜひ一目見たかったからです。一通り西大寺についての説明を受けた後別邸へと案内され、神妙な面持ちだけれど内心ワクワクしながら着座しました。そして出てきたお道具にびっくり！茶しゃく・茶せんをはじめ、ひしゃく・ふくさなどすべてがジャンボサイズだったからです。それを大胆に扱ながらのお手前は見事なものでした。さて、いよいよ大茶碗が目の前に。なるほど近くで見るともっとすごい！とてもじゃないけれど一人では持ち上げられず、左右から支えてもらしながら少しずつ注意していただきました。それでも時には唇の上までお抹茶がドッと押し寄せて（？）きたり、なかなか飲むのに苦労しました。一定の人数が集まらないと開いてもらえないという大茶盛。一個人では特別な催事でない限り味わえない体験ができ、とてもラッキーだったと思っています。
- その他東大寺の大仏殿では、お寺の案内の方がついてくださり、わかりやすい説明で退屈することもなく楽しく拝観することができました。
- 奈良のスタッフの方々には渋滞のためにコースを変更したり、電車に切り替えて移動するなど、適切な判断で誘導して下さり、本当にご苦労だったと思います。おかげで時間のロスもなく、充実した一日を過ごすことができたと、私自身喜んでいます。今度はまた、奈良の中の別の方面へ行つてみたいという気持ちが湧いてきているところです。

「世界船」無事?! 帰国。

Information Board

去る3月18日、第8回世界青年の船が、無事晴海に戻つてきました。本当に『無事』帰れてよかったです、と言いたくなるくらい今年の世界船はスリランカでのテロをはじめ多くの事件やハブニングがあったそうです。4月14日の報告会でも涙を見せながら報告するメンバーの姿にこちらも感動してしまいました。貴重な経験を事後活動に生かしてぜひ、がんばってほしいものです。今回はユースサービス大阪の職員（服部緑地ユース・ホステル勤務）でもある赤木さんに帰国直後の感想を書いていただきましたが、赤木さんは毎日日記をつけていらっしゃったということなので、今後もこの「みおつくし」にシリーズで登場していただきたいと思っています。乞う、ご期待！

「第8回世界青年の船」を終えて（1）

赤木 功

Keep in touch. 帰国して数日経った今、この言葉の重みを改めて感じている。2ヶ月間寝食を共にし、国を超えて語り合った仲間（We are family.）は、離れ離れになった今こそ強い絆でつながっていかなければならぬと思う。

2ヶ月間は数知れない経験をした。船内では、人種問題やセクハラ問題など様々な人間関係で悩み、Discussionを重ねた日や、心がつながった瞬間、涙を流して抱き合った日など毎日が新鮮であった。

寄港地においては、各国の歓迎式典や政府高官のスピーチに感激したり、活動中の暖かい応対に喜びを感じた。しかし、スリランカのテロや南アフリカの人種差別など心を痛める問題も多くあった。

「世界船」に参加し、参加者としての自分その他、日本人としての自分、ユースワーカーとしての自分など、様々な自分を見つめ直すことができた。そして、何にも変え難い宝物を得ることができた。それは、世界13カ国友人とネットワークを持てたことである。いつでもどんなことでも相談できる仲間が世界にいる。これは私の人生の中で大きな財産になった。これからもこのネットワークを大切にし、より一層広げていけることを願っている。（帰国3日後、大阪にて）



南アフリカ CAPE POINT にて

★近畿ブロック大会、滋賀で開催！

今年の近畿ブロック大会は、7月6日～7日、滋賀県で開催されることになりました。昨年度事業派遣者を迎えて楽しくにぎやかな集いになるよう皆で参加して盛り上げましょう！近畿各府県にネットワークを広げるチャンスですよ。詳しくは次号でお知らせしますのでお楽しみに！

★大阪国際交流センター、ホームページ開設！

センター事業を紹介しています。ご活用ください！

<http://www.ih-osaka.or.jp>

★World Ngo Network (WNN) は、NGO,NPO団体や震災支援関係の情報を流したり、国際交流団体のインターネット活用に関する技術面での支援も行っています。<http://www.osaka-u.ac.jp/ymca-os/>

\$
\$ 会費納入のお願い \$
\$
\$ 昨年度は近畿ブロック大会、全国大会と行事が \$
\$ 続き、会計は火の車！誰か助けて～！今年度も \$
\$ 楽しい実のある事業ができますように、また、 \$
\$ この会報の発行のためにもぜひ、会費納入にご \$
\$ 協力ください！よろしくお願ひいたします。 \$
\$

青 春 後 記

この1年を振り返ってみて、年度初めに楽しく、読みやすく、役に立つ広報紙をと思っていたのに、いつも締切に追われ、全く努力の足りなかった自分を情けなく思う。作っていて一番空しくなるときは、誰からも全く何の反応も返って来ない時。反対に一言でも意見や感想が返ってきたときは本当にうれしい（減多にないけど・・・）。反応がないということはそれだけ紙面がマンネリ化していて面白くないんやなあとわかってはいても、全面的に変えることはできなかつた。特に全国大会のPRを毎回していて、これって誰か読んでくれてる人がいるんやろかと思えるくらい反応が少なく、広報部長としては、全国大会に人が集まるのかという不安が大変大きかった。スタッフが盛り上がるのも非常に遅く、「ほんまにできるんやろか」という感を強くしていたら、ぎりぎりになってやっと皆やり始めた。事後活動への引き込み方の難しさを肌で感じた大会であったが、いくつか課題を残したとはいえ、まあとにかく成功したことにはっとして、「みおつくし」発行が非常に遅くなってしまった。

「え、遅れたん？」てゆうてるあんた！

たまには「しばらくけへんけど、どないしたんや」ぐらい、ゆうてや。そやなかつたら、もう広報部長やめるでー。（「どうぞ」と誰かさんの声。）

OH! NO!